

# 2024-2026 年度中期経営計画

2024 年度 実績報告書

学校法人共愛学園

企画調査室

## 目次

1. 実績報告書の概要.....	2
2. こども園 2024 年度実績報告書.....	4
3. 小学校 2024 年度実績報告書 .....	6
4. 中学校 2024 年度実績報告書 .....	8
5. 高等学校 2024 年度実績報告書.....	10
6. 短期大学部 2024 年度実績報告書 .....	12
7. 大学 2024 年度実績報告書 .....	14
8. 学童クラブ 2024 年度実績報告書 .....	16
9. 法人事務局 2024 年度実績報告書 .....	18
10. 実績報告書まとめ .....	20

# 学校法人共愛学園 2024 年度中期経営計画実績報告書

学校法人共愛学園  
企画調査室

## 1. 実績報告書の概要

### 1-1. はじめに

2020 年 4 月私学法改正により、大学を設置する学校法人は中期経営計画(以下、「中計」という。)の策定が義務化されている。本学園は、いち早く 2009 年度より中計を取り入れ、①教育研究・教育・保育計画、②学生・生徒・園児・児童募集計画、③学納金計画、④施設・設備・修繕計画、⑤人事計画、⑥その他の 6 項目で本学園が進むべき道を示してきた。

本学園の中計は PDCA サイクルに基づき、2018-2020 年度中計では形式自体を見直し、より明確な目標、より具体的な計画が策定できるように改善したが各項目の目標数を予め定めていなかったため行動目標数が多くなり、力の分散により未達成の目標も多く生じていた。2021 年度-2023 年度中計では、前期中計の課題を踏まえ、①「教育内容」、②「教育組織」、③「教育環境」、④「教育運営」の 4 つの領域に絞り、それぞれの領域で事業の達成目標 (KGI) を 2 つまでの設定とした。2024 年度-2026 年度の新たな中計においては、長期経営計画の視点から、3 カ年のみの取り組みでは学園の将来像である「各部門とも県内トップ校になる」の達成が難しいとの判断により、学園の前期中計ビジョン「教育の質を高める」を今期も継続することとした。

2024-2026 年度中計は 2024 年度が初年度にあたり、各部門における 1 年間の実績を報告する。

### 1-2. 実績報告書の評価基準について

実績報告書は公開を前提としているため、事業の達成目標 (KGI) の評価を重視する。ただし KGI は 3 年間の積み上げ式、すなわち、3 年間で 100%の達成を目指すため、各年度の実績については各年度の 1 年間で 100%の達成を目指す成果指標 (KPI) で評価する。また、評価方法は各部門よりエビデンスに基づいて記入された実績報告シートを企画調査室が検証し、以下の評価基準にて 6 段階で示すことにする。49.9%以下は本学園の達成基準を下回ったと評価する。また、未着手または目標の変更の場合は、F 評価とする。

また、評価は今後の各部門における業務運営の改善に資するよう、簡潔な表現で示すとともに、必要に応じて理由等を付すことを基本とする。また、特筆すべき点や今後の取組に係る課題がある場合には、簡潔な文章による意見を付すことにする。

### 1-2-1. 6段階評価の評価基準

評価	KPI 達成率	報告書での表現方法
S	100.0%以上	目標を達成した。
A	80.0～99.9%	ほぼ目標を達成した。
B	60.0～79.9%	概ね目標を達成した。
C	50.0～59.9%	半分程度は目標を達成した。
D	49.9%以下	着手したが、目標達成基準を下回った。
F	－	未着手または目標の変更

### 1-3. 成果指標（KPI）の評価方法について

各部門が設定した事業達成目標（KGI）の評価は、3カ年計画の各成果指標（KPI）の達成率に基づき評価する。成果指標の達成率は、各KGIに設定された行動計画の達成率に基づき評価している。すなわち、事業達成目標を達成させるために細分化された各行動計画の達成率が、全体評価の基準となる。

各行動計画には成果指標（KPI）が設定されており、各部門の担当者は、行動計画の年度実績チェックシートに成果指標の達成率とエビデンスを記入し、本学園企画調査室に提出する。企画調査室は、各部門の担当者が記入した自己評価の妥当性を検証し、報告書を作成する。作成した報告書は、内部監査室に提出され、企画調査室の評価結果を検証したうえで、内部監査委員会に諮り、最終的な評価を確定させている。

### 1-4. 実績報告書で使用する用語説明

中計はこれまで学校法人では馴染の無かった経営的な専門用語が使用されているため、まずは本中計で定義されている用語を確認することにより、さらに本報告書の理解を深められるよう以下に説明を付す。

#### ① ビジョン

ビジョンは、各部門のミッションを踏まえ、方向性・目指すべき姿を簡潔に示したメッセージである。3年後にどんな学校になりたいか、どんなことを達成したいかなどの将来像が示されている。

#### ② 領域

領域は、各部門が運営・業務を行う上でのトップテーマであり、活動領域を示している。

#### ③ 事業達成目標（KGI）

KGI（Key Goal Indicator）は、事業を達成させるための具体的な最終目標である。KGIは重要目標達成指標であり、各部門が達成すべき目標を定量的、数値的に表している。

#### ④ 成果指標（KPI）

KPI（Key Performance Indicator）は、行動計画の達成度を評価するための中間目標であり、本学園ではKPIの評価が事業達成目標（KGI）の評価につながっている。

## 2. こども園 2024 年度実績報告書

### 2-1. こども園取組み事業総括

2024-2026 年度こども園の中計ビジョンは、「互いに愛し合い、多様性に寄り添った豊かな保育」であり、ビジョンに基づき 4 つの領域、8 項目の事業達成目標 (KGI)、各 KGI には 3 カ年計画および各年度の成果指標 (KPI) が設定されている。

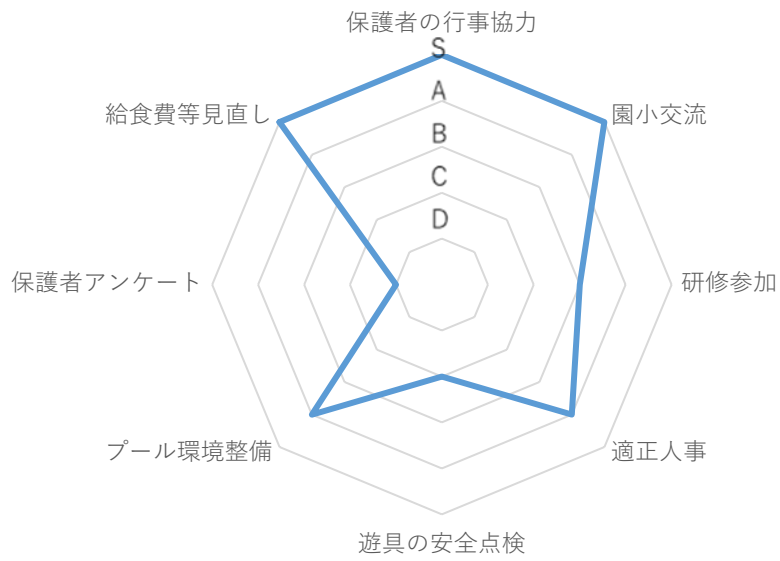
2024 年度中計における KPI の実績は、教育内容の領域は順調に目標を達成したが、教育組織、教育環境、教育運営の各領域は未達成であった。

2024 年度は、保護者の方々に共愛の保育を理解していただくために、園庭のテント設営やプール掃除、プール監視や保育参加、給食試食など様々な活動に参加いただいた取組みは、保育の可視化に貢献していると言える。共愛の保育の理解を深めていただくため、次年度も継続した取り組みが求められる。また、園小交流活動の実施は、園小連携や園小接続へと繋がる良い取組であろう。給食費値上げ、延長保育料金値上げは適切に行なえたが、物価高騰の状況下では経営の改善には至らず、さらなる努力を要する。

評価の低かった KPI を見ると、保護者満足度調査を年度末に計画していたが、実施には至らなかった。しかし一方で、行事ごとのアンケートを実施しており、各行事の満足度を把握できていることから、次年度も継続して満足度調査を実施することが望ましい。遊具の定期点検については、毎月 2 回の安全点検を職員で行ない、気になる所はその都度労務職員で修理を行なっている。しかし職員で行うには限界があると思われるため、事故を未然に防ぐためには業者による専門的な点検も取り入れることが求められる。

こども園は 0 歳児より園児を受け入れ、また、地域性も高いため、総合学園である本学園の第一印象を決める重要な役割を担う部門である。言い換えれば、これまで本学園と関係の無かった人たちが、はじめて共愛学園と関りが生じる重要な部門である。すなわち、良い印象を与えられれば、多くの園では不可能である系列の小学校につながることもでき、将来的には中高大につながる要因にもなる。反対に悪い印象を与えてしまえば、本学園との関係を遠ざけてしまう要因にもなる。こども園と学童クラブは他部門と比較すると地域性が強く、また、全員が強く志望して入園した母集団ではないため、良い印象を与えていくことは通常よりも一段と難しくなる。したがって、中計で戦略的な計画を策定し、職員が体系的に行動できる体制を継続して整えることが望ましい。

# こども園 2024年度KPI評価



### 3. 小学校 2024 年度実績報告書

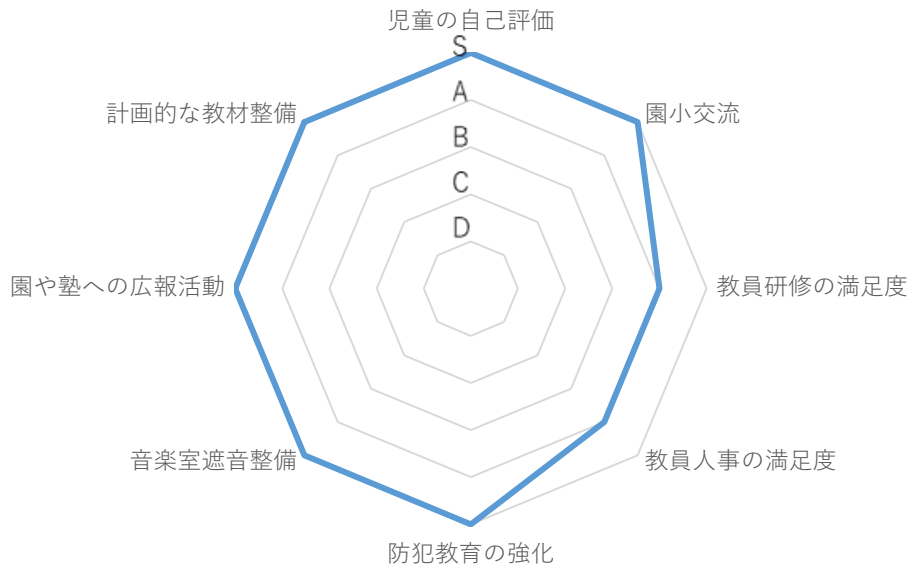
#### 3-1. 小学校取組み事業総括

2024-2026 年度小学校の中計ビジョンは、「共愛学園小学校の教育が知れ渡り、誰もが入学したくなる小学校を目指す」であり、ビジョンに基づき 4 つの領域、8 項目の事業達成目標 (KGI)、各 KGI には 3 カ年計画および各年度の成果指標 (KPI) が設定されている。

2024 年度中計における KPI の実績は、教育内容、教育環境、教育運営の各領域は順調に達成し、教育組織の領域もほぼ達成できている。

2024 年度は、4 期生が卒業し希望者全員が特別推薦で共愛中学校に進学することができた。しかし、外部進学者が 2 割程度生じたことから、次年度は接続をさらに強化させるために、中学校との交流等の計画的な推進が期待される。2024 年度はまた、園小接続のためにこども園と隔月に会議を開き、年間の計画を立てて交流を進めた。小学からこども園へ 5 回、こども園から小学校へ 4 回の交流活動を実施し、小学校の教員がこども園で読み聞かせや授業をすることで顔と名前を覚えてもらい交流が深まった。園小交流は総合学園ならではの強みであり、小学校の児童募集につながる大変有効な事業であるため、次年度以降も継続しての実施が切に求められる。また児童募集活動では、広報部を組織して広報活動を実施し、児童の出身園を中心に 45 園、塾には 5 教室、教員全員で手分けして訪問した。KPI の目標については 100% 実施できたが、一方で入学者は定員の 68.3% にとどまる結果となった。今後は経営戦略会議等を設けて定期的に検討し、全職員の意識を高め、児童募集に注力していく必要が生じている。収支安定化を図る事業目標では、児童用 iPad 購入に伴い、ICT 補助金を活用することで支出を抑制できた。支出抑制に向けた 2024 年度の取り組みについては達成できたと言える。しかし一方で、2025 年度は定員割れによる大幅な収入減により、経費の節減だけでは追いつかないことが予測され、定員の確保が急務となっている。これまでにない新たな教育を取り入れる等、小学校の魅力を高めることが求められる。

# 小学校 2024年度 K P I 評価



## 4. 中学校 2024 年度実績報告書

### 4-1. 中学校取組み事業総括

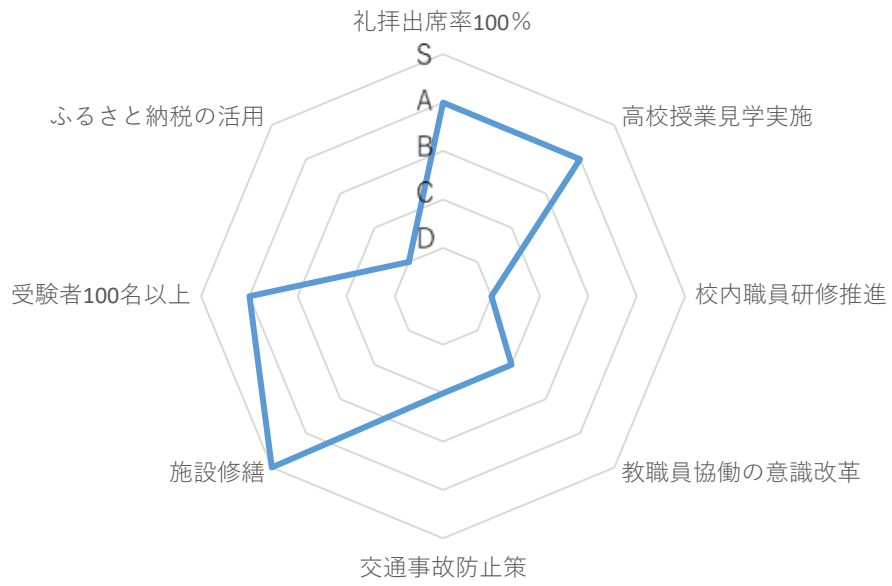
2024-2026 年度中学校の中計ビジョンは、「総合学園共愛学園の中等教育の前期課程に当たる中学校の教育内容の質の転換を図ると同時に小→中→高という接続・連携の中核としての教育プログラムの開発を進める」であり、ビジョンに基づき4つの領域、8項目の事業達成目標（KGI）、各 KGI には3カ年計画および各年度の成果指標（KPI）が設定されている。

2024 年度中計の KPI の実績は、教育内容の領域はほぼ順調に達成したが、教育組織、教育環境、教育運営の各領域は未達成の KPI があった。

2024 年度は中学から高校への内部進学 95%以上を目指す取り組みでは、共愛高校への関心を高めるという計画について、中3において、今年度高校進路主任の講演会を新たに加えた。様々な取組の結果、高校への内部進学的人数は 97 名の内 84 名（86%）となった。今後、公立高校において不合格者が出ない状況が進む中で、公立校へ流出する生徒が増加することが懸念されるため、共愛高校の見学や高校生との交流の機会を増やすなど、共愛高校へ接続するための更なる施策が求められる。また施設整備では、老朽化したエレベータの入替え工事や、夏季の酷暑対策として私立学校の防災機能強化補助金を活用し、前倒して体育館の空調工事も実施することができた。なお、体育館の空調は光熱水費の高騰もあり、ガイドラインを定めて効率よく利用する必要があることを付記しておく。

また、評価が低かった事業としては、教職員研修の充実と経常収支の安定化が挙げられる。教職員研修については、年度開始後に全職員への研修として救命救急研修を実施したが、8月下旬に実施予定であった夏期教職員研修は、台風接近のため中止となった。その後の全体での研修実績は特になく、未達成であった。経常収支計画では、前橋市とふるさと納税で連携することを目指したが、効果的にアピールできず協議を進めることができなかった。ふるさと納税活用による行政との連携は、今後も継続して取り組みたい課題である。

# 中学校 2024年度 K P I 評価



## 5. 高等学校 2024 年度実績報告書

### 5-1. 高等学校取組み事業総括

2024-2026 年度高等学校（以下、「高校」という。）の中計ビジョンは、「課程の枠を超え、文理融合や STEAM 等を含めた教育の質の転換を更に進めると同時に、中→高一→大の連携教育を更に発展させ、総合学園共愛学園の中等教育の後期課程としての役割もより明確にする」であり、ビジョンに基づき 4 つの領域、8 項目の事業達成目標（KGI）、各 KGI には 3 カ年計画および各年度の成果指標（KPI）が設定されている。

2024 年度中計の KPI の実績は、残念ながら達成できた領域がなく、教育内容、教育組織、教育環境、教育運営の各領域に未達成の KPI がある。

2024 年度は、難関私立大への進学 5 名増を目標の一つに掲げた。2024 年度の難関私立大学(早慶上理 GMARCH 関関同立)進学者数 19 人に対し、2025 年度の難関私立大学進学者数は 24 名という実績であり、難関私立大進学 5 名増を達成することができた。全体的に見ると、難関国公立大学筑波大学 2 名合格の他、慶應義塾大学 4 名、国公立大学・難関私立大学 49 名、準難関私立大学 25 名の延べ合格者数があった。特に、英語科進学コースから難関私立大学へ挑戦した生徒が多く、受験の結果実績を残すことができた。これは、2021 年度から導入した KSSC (Kyoai Study Support Center) による学習効果が着実に上がってきているのではないかと見られる。しかし一方で受験に向けての準備が遅い生徒もいるため、そのような生徒への指導を強化する必要がある。また、英語外部検定の受験を一層推奨し、積極的に活用させることも大事である。大学入学共通テスト受験者数の減少を食い止め、国公立大学や難関私立大学受験まで粘り強く挑戦する生徒を育てたり、進学コース一般選抜受験者のフォローを引き続き行ったりすることが重要であろう。

また施設整備では、老朽化したエレベータの入替え工事を完了したことや体育館の空調工事も実施できたことは中学と同様の実績である。

KPI の達成率があまり高くなかった事業として、新学科等の検討が挙げられる。本事業は 2024 年度に採択された DX ハイスクールの推進事業の一つとして取り組んでいる。「新学科コース設置 WG」でカリキュラム案を作成したが、コース設置等の決断は次年度に持ち越すこととなった。次年度は DX 推進ディレクターを迎え本格的に取り組んでいくことが計画されているが、2027 年度に新学科/コース等の設置を目指すには、2025 年度の早期から新たな学科/コース等のコンセプトや教育プログラムの検討を推進することが急務である。総合学園の強みを活かし、2026 年度に設置予定である大学のデジタル共創学部（仮称）と連携した取り組みが求められる。

また、教職員研修の充実と経常収支の安定化において達成率が低かったことは、中学と同様の結果である。

# 高等学校 2024年度KPI評価



## 6. 短期大学部 2024 年度実績報告書

### 6-1. 短期大学部取組み事業総括

2024-2026 年度の短期大学部中計ビジョンは、「子育て、食等の地域の課題解決に主体的にチャレンジする意欲を持った学生を育てることで、ステークホルダーから評価を受ける短大になる」とし、ビジョンに基づき4つの領域、8項目の事業達成目標（KGI）、各 KGI には3カ年計画および各年度の成果指標（KPI）が設定されている。

2024 年度中計の KPI の実績は、教育内容、教育組織、教育環境の各領域は順調に達成したが、教育運営の領域は未達成であった。

2024 年度は、SD-challenge 満足度向上の取り組みでは、学生の満足度は「よくできた」77.3%、「ほぼできた」22.2%であり、99.5%の学生が満足していることが窺える。ほぼ前年度と同様な結果であり、もともと達成率が高いため大きな伸びは見られないが、学生の満足度は十分に高い水準であると考え。外部研究資金の獲得件数では、1件の目標に対して令和4年度より継続中の群馬健康づくり研究助成と、令和6年度地域環境学習推進事業の2件が採択されている。しかし、獲得の助成は2件とも栄養関係であるため、保育関係の助成獲得も望まれる。

KPI が未達成の項目としては、こども学専攻の定員は50名だが入学生25名以上確保の取り組みに対して14名の入学実績であった。募集停止を公表した後の募集活動であったこともあり、学生集めはかなり難航した。2025年度入学生募集をもって短期大学部での募集活動は停止となり、今後は大学の幼児教育・保育コースとデジタル共創学部へと異動する教員によるオープンキャンスでの学生募集支援が中心となる。また、経常収支差額の改善では、私学改革総合支援事業の獲得を目標に掲げていたが採択には至らず、財務の改善には貢献できなかった。

## 短期大学部 2024年度KPI評価



## 7. 大学 2024 年度実績報告書

### 7-1. 大学取組み事業総括

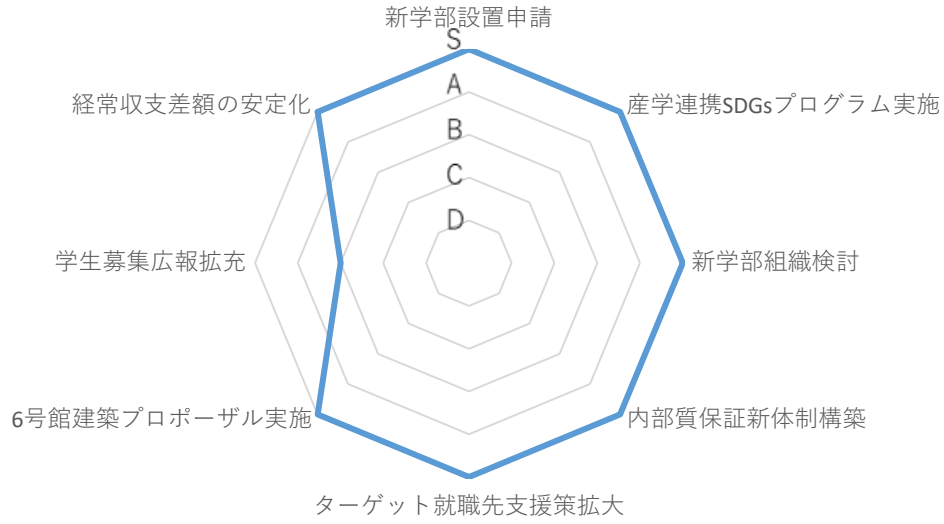
2024-2026 年度の大学中計ビジョンは、「最先端の学修と人材育成を確立させるカリキュラムを柱に、教育の質保証システム先進大学となる」とし、ビジョンに基づき 4 つの領域、8 項目の事業達成目標 (KGI)、各 KGI には 3 カ年計画および各年度の成果指標 (KPI) が設定されている。

2024 年度中計の KPI の実績は、教育内容、教育組織、教育環境の各領域は順調に達成したが、教育運営の領域には未達成の KPI があった。

2024 年度は、新学部設置申請の取組み事業について、新学部のカリキュラム検討を進め、大学設置室への学部設置認可申請並びに私学行政課への寄附行為変更認可申請を行った。また新学部組織検討では、教員の確保について設置基準 14 名のところ、基幹教員 15 名の採用予定とすることができ、学部設置認可申請書並びに寄附行為変更申請書の提出を滞りなく行っている。6 号館建設事業では、設計士選定プロポーザルを行い、(株)SALHAUS 様に決定した。基本設計を経て実施設計まで完了し、建築業者は塚本建設(株)様に決定している。しかし一方で、建築資材の高騰のため、工事価格が当初想定より高額となったことや、施工期間が新学部開設に間に合わず、1 か月遅れが見込まれるといった課題が生じたことを付記する。経常収支差額の安定化の取組みでは、経常収支差額は約 1 億 8 千 9 百万円となり KPI を大きく上回る形となった。収入について、安定した入学定員の確保等により順調な数字となった。支出について、その他教育活動支出は予算より約 8 千万円ほど大きく減額となった。2024 年度は新学部設置申請の関係により、当初予定していた大型予算の執行を 2025 年度に移行したものがあつて経費減額となっている。2025 年度は記述分の経費増額や新学部の準備、6 号館建設等に伴い経費は大幅増となる見込みであるため、その他全体的な支出を可能な限り抑えていく必要がある。

KPI の評価が唯一未達成であった事業として、県外高校からの入学者拡充がある。2025 年度の県外高校からの入学者は目標の 50 人に対し、19 人とどまった。今後の少子化の時代において定員割れをしないためには、県外からの入学者の確保が重要となるため、県外への広報や群馬県以外での本学の知名度の向上は急務である。2026 年度入試 (2025 年度実施入試) からは新学部の入試募集が始まる。オープンキャンパス、高校訪問、ガイダンス、その他広報においても、より本学・新学部の知名度を上げられるように、各施策で効果的かつ大々的な広報活動を検討・実施し、新規層も受験してもらえようすることが重要課題である。なお、2025 年度入試 (2024 年度実施入試) においては、入学者は 367 名 (編入を除く) となり、入学定員を大幅に上回る過去最高の入学者数となった。高校訪問・進学ガイダンスも、当初設定した数値以上に参加・訪問し、目標を達成できたことを付記しておく。

# 大学 2024年度KPI評価



## 8. 学童クラブ 2024 年度実績報告書

### 8-1. 学童クラブ取組み事業総括

2024-2026 年度の学童クラブ中計ビジョンは、「共愛共生の精神が養われ、その良さに気づき、さらに深めようとする児童を育てる」とし、ビジョンに基づき 4 つの領域、8 項目の事業達成目標（KGI）、各 KGI には 3 カ年計画および各年度の成果指標（KPI）が設定されている。

2024 年度中計の KPI の実績は、教育環境の領域はほぼ順調に目標を達成しているが、教育内容、教育組織、教育運営の各領域は未達成であった。

2024 年度は、定期的な避難訓練の実施では 地震、火災、水害、不審者の避難訓練を毎月実施することができた。また、遊ぶ際の安全について等の話し合いをすることができた。安全については後手にならないように、予防を徹底することが大切である。HP を充実させる取り組みについては、行事の様子等がよくわかる写真を添えて毎月ブログを更新することができた。入会案内等についても適時ブログを作成することができた。新しく利用を希望する方はホームページを見て入所を検討すると思われるので、活動の様子や方針が伝わるものを載せることは学童に対する親しみやなじみややすさにつながる重要な取り組みであり、継続することが望ましい。

KPI の評価が高くなかった事業として、専門家を招いての研修の実施については、講師を探したり研修の時間を確保したりすることが難しく、実施に至らなかった。他部門で行なっている研修で参加可能なものがあれば一緒に参加したり、総合学園の強みを活かして、大学や短期大学の教員に研修講師を引き受けてもらえないか相談したりすることも可能であろう。職員の FD/SD 研修は教育・保育業界のトレンドでもあり、子どもたちの理解とかかわり方について専門的に学ぶことができれば、自信をもって子どもたちと接することが可能となり、保育の質の向上につながる。次年度は、専門的な研修の実施が望まれる。

## 学童クラブ 2024年度K P I 評価



## 9. 法人事務局 2024 年度実績報告書

### 8-1. 法人事務局取組み事業総括

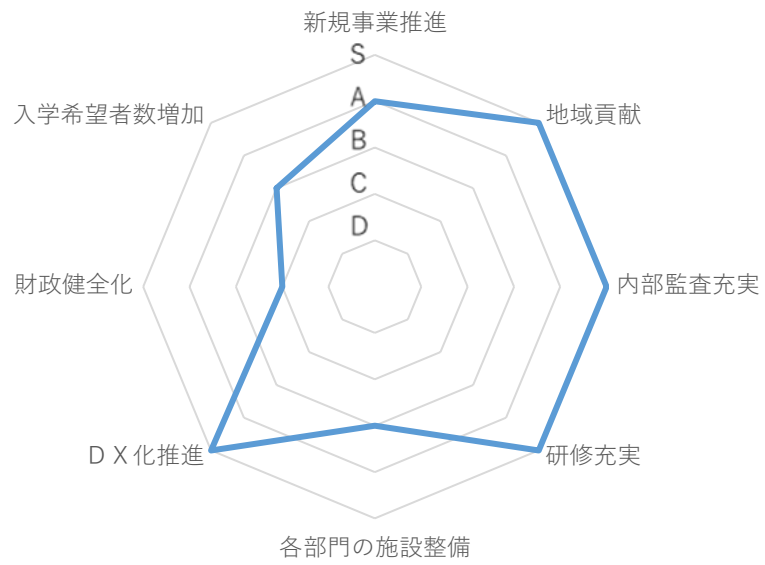
2024-2026 年度の法人事務局中計ビジョンは、「今、共愛（共生）の使命（Mission）に生きる」とし、ビジョンに基づき 4 つの領域、8 項目の事業達成目標（KGI）、各 KGI には 3 カ年計画および各年度の成果指標（KPI）が設定されている。

2024 年度中計の KPI の実績は、教育内容、教育組織、教育環境の各領域は概ね目標を達成しているが、教育運営の領域は未達成であった。

2024 年度は、新学部設置申請の取組み事業について、新学部のカリキュラム検討を進め、大学設置室への学部設置認可申請並びに私学行政課への寄附行為変更認可申請を行った。また新学部組織検討では、教員の確保について設置基準 14 名のところ、基幹教員 15 名の採用予定とすることができ、学部設置認可申請書並びに寄附行為変更申請書の提出を滞りなく行っている。6 号館建設事業では、設計士選定プロポーザルを行い、(株)SALHAUS 様に決定した。基本設計を経て実施設計まで完了し、建築業者は塚本建設(株)様に決定している。しかし一方で、建築資材の高騰のため、工事価格が当初想定より高額となったことや、施工期間が新学部開設に間に合わず、1 か月遅れが見込まれるといった課題が生じたことを付記する。

KPI の評価がやや低かった事業は、財政の健全化と質の高い生徒・学生の確保である。経常収支差額の安定化の取組みは、大学を除き達成できなかった。経常収支差額において安定化を図るため、補助金の積極的な活用や計画的な施設修繕、様々な利用サービスの見直し等が求められる。そして何よりも定員確保が命題となっているが、定員確保に向けた取組みでは、大学と学童クラブを除いては達成できていない。大学は広報活動の強化が功を奏して過去最高の入学者が集まり、学童クラブは共働き世帯の増加からか定員を超える入所希望があったが、一方で大幅に定員が割れた部門もあった。少子化が年々確実に進む中で、各部門で総合学園の強みを活かして部門間の交流を強化したり、全く新たな魅力を創出したりする等、定員確保に向けた募集戦略の拡充が喫緊の課題である。また本学園は 2024 年度より 5 箇年計画で 140 周年記念事業募金を開始した。順調なスタートとは言えないが、同窓生や保護者の方々、外郭団体の皆様などからご支援いただいている。新規事業を実現させるために、本募金活動を継続して成功させることが重要であることを付記する。

# 法人事務局 2024年度K P I 評価



## 10. 実績報告書まとめ

本報告書の中心は、2024年度の各部門における中期経営計画のKPI達成状況の評価と達成できなかった領域の課題抽出である。特に、教育内容は多くの部門で好成績を収める一方、教育組織や教育運営、経常収支の安定化などで課題が顕著である。大学新学部設置準備や施設整備は進展しているが、定員確保や教職員研修、広報活動の強化が急務とされる。

多くの部門で教育内容に関するKPIは高い達成率を示し、教育の質向上が進んでいる。しかし、教育組織や運営面では、教職員研修の不足や組織力の弱さが目立ち、学校間の連携強化や職員の能力向上が課題となっている。特に高校と中学校で教職員研修実施率が低く、教職員の意識改革と組織活性化が急務である。

少子化の影響で入学者数の確保が難しくなっており、特に小学校の定員充足率が68.3%にとどまるなど各部門で定員割れが発生した。大学は過去最高の入学者数を達成したものの、県外高校からの入学者確保は目標に及ばず、全体として広報活動の強化と魅力的な教育プログラムの創出が必要である。こども園や学童クラブでは地域性を活かした募集戦略が求められている。

老朽化した施設の改修や新学部開設に伴う建築工事が進んでいるが、資材高騰や工期遅延などの問題が生じている。経常収支の安定化は大学で達成した一方、他部門では未達成である。補助金活用やDX推進による業務効率化、ボランティア活用など多角的な対策が必要であり、財政基盤の強化が法人全体の持続的発展には不可欠である。

2024年度は教育内容において多くの目標を達成しつつも、教育組織や運営面、財政面での課題が明確となった。今後は組織力強化、定員確保、研修充実、施設整備の効率化を中心に経営の安定と質の向上を図る必要がある。今後の本学園の重点的な取り組みとしては以下の視点が求められる。

- ① 教職員研修の定期化・質向上と組織文化の改革推進。
- ② 定員確保のための広報戦略強化、新教育プログラムの導入。
- ③ 大学新学部設置に合わせた連携体制の整備と地域外広報戦略の強化。
- ④ 施設整備費用の適正管理と大学6号館工事遅延対策、DX活用による業務効率化。
- ⑤ 各部門間の連携促進と総合学園としての相乗効果創出。
- ⑥ 創立140周年記念募金活動の継続と新規事業推進。